

合格者が語る！



2015年 司法試験合格
富田 興太郎さん
中央大学法科大学院（卒業）

「4A論文過去問分析講義の使い方」



任官等のため上位合格を目指している人も、“一発合格”が大前提ですから、まずは確実に“一発合格”できるようにすべきです。そこまで来れば、実は上位合格もあと1歩！



まさに“己を知る”ですね！
明確なゴールに向けて、くり返し反省分析を重ねて成長していくことで、いつかは必ずそのゴールに辿り着くことができます。



上記ゴールに最短・最速かつ最も効率的に辿り着きたい方には、『4A論文過去問分析講義』を自信を持ってオススメします！



試験を受けるのは、あくまで皆さん自身です。講義では、合格ラインを確保するための情報から、ぶっちぎりでトップ合格できる情報まで幅広くお伝えしていますが、自分自身が（上位）合格するために必要有益だと感じた情報を取ることで、自分自身の成長につなげましょう。



これぞまさに、自己“分析”です！



評論家的な視点ではなく、他ならぬ自分自身が合格するには？という当事者意識を持って「利用」するのが、最も効果的です。



“己”の失敗や弱点等は次回、克服すべき“敵”として立ちはだかります。
これを明確に言語化・可視化することで、見えにくい“己”＝“敵”と戦いやすくなるのです。



1回解いて頭で“理解した”だけでは、本試験現場という“戦場”では頼りになりません。極限状態でも無意識に頭・身体が動くレベルを目指して、くり返しくり返し解きましょう！

1

合格ラインを超える答案が書けるようになるためのツールとして使う

司法試験においては、相対評価で1800番から2000番程度の答案を書くことができれば合格することができます。そのため、受験対策をするに当たっては、自分がこの合格ラインの答案を書くことができるのかどうかを意識することが大切です。自分の答案（構成）と合格者の答案（構成）とを比較して、合格ラインの答案を書くことができていると判断したら、どうすればその問題で合格ライン答案を書くことができるようになるのかを分析し、次回同じ問題を解くときに前回の分析を踏まえて答案構成します。この過程をくり返すことで、徐々に合格ライン答案を書くことができるようになるのですが、この過程、特に“分析”部分に本講義を上手に組み入れれば、効果的な自己分析が可能となります。

2

基本的な活用法

①問題を解く

問題文と司法試験用六法だけを参照して、本試験の制限時間の4分の1～2分の1程度で答案構成をします。講義と答案例を最大限に活用するために、まずは限られた時間内に自力で解くことが大切です。

②講義を聞き流す

講義では中村講師の思考過程が語られるので、自分が問題を解いたときの思考過程と比較して「これは使えそうだ」と思った部分を盗んでいきます。あまり時間をかけてじっくり聞くのではなく、とにかく講義を最後まで聞いて使えそうな部分をチェックしていくことが大切です。講義の内容すべてを理解するのではなく、あくまで今の自分にとって有益だと思える部分を見つけることが、講義を聞く際のポイントです。

③自分の答案構成と講師作成答案例を比較する

自分の作成した答案構成と講師作成答案例とを比較して、現時点で自分が解けた部分と解けなかった部分を明確にします。講師作成答案例は、問題によってはかなり細かい点まで書かれているものがありますが、初めて講師作成答案例を見る際には、講義または答案例に付されたコメントで「加点事由」とされている部分は飛ばして読んでも問題ありません。答案例を読む際も、今の自分に足りていないところを発見する姿勢で読むことが大切です。

④反省・分析をメモする

講義を聞き、講師作成答案例を読むことで、「こうすればよかった」という部分が出てくると思います。そのような反省・分析は、自分の作成した答案構成などにメモして残しておきます。次回同じ問題を解いたときに、前回の反省を生かして解くことができたかどうかを確認するためです。

3

くり返し解くことで過去問を潰す

最初は解けない過去問がたくさんあっても、何回もくり返しぶつかっていくと、自分の中からスツと答案構成が出てくる瞬間がやってきます。
これ自体すごく快感ですし、その積み重ねで、「絶対に合格ラインを超えることができる！」という自信を持つこともできます。